

獣医師生涯研修事業のページ

このページは、Q & A形式による学習コーナーで、小動物編、産業動物編、獣医公衆衛生編のうち1編を毎月掲載しています。なお、本ページの企画に関するご意見やご希望等がありましたら、本会「獣医師生涯研修事業運営委員会」事務局までご連絡ください。

Q & A 産業動物編

症例：牛，ホルスタイン種，雌，3歳10カ月齢（2産），
分娩から20日経過（泌乳初期）

臨床所見：1週間前から食欲不振と回復を繰り返すが、
今日になって食欲停止。

体温38.5℃，心拍数90回/分，呼吸数20回/分，
ルーメン運動停止。

眼窩陥没，沈鬱，少量の軟便，皮温低下，泌乳量低
下，ただし乳房炎は陰性。

昨日と比べて右臍部が膨隆し，金属性反響音
（pinging sound）を聴取したが，後肋部では明瞭な
金属性反響音は聴取されなかった。

血液検査所見：

Ht：40.5%	RBC：692 × 10 ⁴ /μl
WBC：7,200/μl	GOT(AST)：92U/l
γhGTP：20U/l	Tcho：72mg/dl
BUN：21.2mg/dl	Cre：1.1mg/dl
TP：7.5g/dl	Alb：3.5g/dl
CPK：59U/l	Ca：9.3mg/dl
iP：5.4mg/dl	Mg：2.4mg/dl
Na：150mEq/l	K：3.7mEq/l
Cl：90mEq/l	

乳汁検査：

乳中βhヒドロキシ酪酸：400μmol/l.

質問：上記の所見等から最も疑われる疾患は何でしょうか。

（解答と解説は本誌37頁参照）

解 答 と 解 説

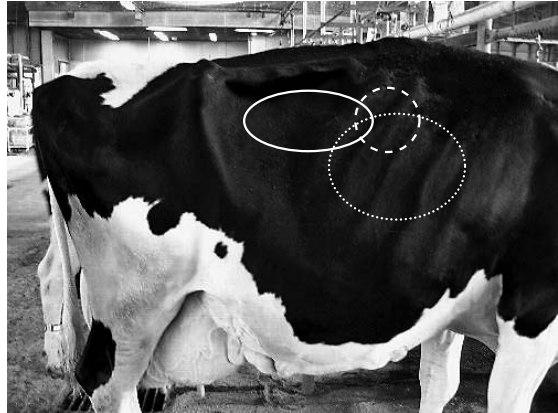
質問に対する解答と解説：

右臍部の膨隆と金属性反響音から、本症例は盲腸拡張症が最も疑われます。本症は、盲腸の運動不全により盲腸内容が停滞し、異常拡張や捻転を引き起こす疾病で、捻転例では痙痛（イレウス様症状）や重度脱水（血液循環不全）を起し、死亡する場合があります。

原因は、第一胃の異常発酵（濃厚飼料の多給や変敗したカス飼料の給与など）です。異常発酵により増加した酪酸、プロピオン酸や胃壁から吸収されたアンモニア等が消化管運動を抑制し、運動不全に陥った盲腸に第一胃異常発酵産物が滞留し、拡張や捻転を起こします。また、妊娠子宮による圧迫も盲腸を弛緩させ（盲腸アトニー）、分娩後の本症発病の誘因となります。

盲腸拡張症では、食欲不振や泌乳量低下がみられ、盲腸の本来位置である右臍上部で金属性反響音（pinging sound）が聴取されます。通常、分娩後1カ月以内の食欲不振は第四胃変位を疑いますが、第四胃変位では後肋部で広範囲の金属性反響音が聴取されます。本症例では、後肋部では金属性反響音は聴取されず、右臍部で金属性反響音が聴取できたことから、盲腸拡張症と鑑別診断できます。

しかし、眼窩陥没や皮温低下などの重度の脱水症状がみられること、血液検査においてもHtやBUNの上昇がみられること（血液循環不全）、低クロール血症による代謝性アルカローシスがみられることから、本症例は単なる拡張症ではなく、捻転を伴っていることが推察されます。したがって、緊急に手術して捻転を整復する必要があるため、1日以上放置す



○ 盲腸拡張症 (---) 結腸鼓脹 (····) 第四胃右方変位

図 右腹壁における疾患別の金属性反響音（pinging sound）聴取領域

ると治癒率は著しく低下します。なお、拡張症のみで重度の全身症状を伴わない場合は、塩酸メトクロプラミド製剤や塩類下剤（硫酸マグネシウム等）の投与によって内科的に症状の改善を図る場合もあります。

また、本症例では乳中 β -ヒドロキシ酪酸が増加し、ケトーシスを併発しています。したがって、開腹手術後はケトーシスの治療（高張ブドウ糖またはキシリトール等の投与）を行うことが、治癒促進の上で重要と思われます。

キーワード：牛、右臍部膨隆、金属性反響音（pinging sound）、盲腸拡張症

※次号は、小動物編の予定です